

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝



「発達障害の僕が輝ける場所を見つけられた理由」



モデル、タレント、俳優として活躍中の「栗原類」さんは、8歳のときにADD（注意欠陥障害）と診断されました。なぜ自分の才能を生かす場所を見付けられたのか、その理由をまとめた本を紹介します。

1 栗原類さんの特性

①聴覚過敏

- ・保育園時代、園児たちのがなりたてるような歌声が苦手で、いつも耳を塞いで固まったり、教室から逃げ出したりしていた。

②強いこだわりがある

- ・一度行ったことのある場所に行く場合は、同じルートででないと感じが進まない。冷蔵庫に入っている物の置き場所がいつも変わっていると不安定になる。

③注意力散漫で忘れ物が多い

- ・出かける15分前に母から「出るときにゴミを出してね」と言われても、玄関先にゴミ袋が置いてあっても気付かずに出かけてしまう。

④二つの動作が同時にできない

- ・あまり思考が伴わない書き写す作業はそこそこ読める程度の字を書けるが、テストのように思考が伴う途端に字が汚くなる。

⑤記憶力が弱い

- ・ついさっき頼まれた内容や聞いた話が、数分後には思い出せないことがよくある。料理は好きだが、レシピや手順は覚えていない。

⑥感情表現が苦手、無表情に見えがち

- ・うれしい、悲しい、怒りなどを表情で表現するのが難しく、たくさんの映画を見て、俳優たちの表現を見ながら勉強している。

⑦人の心の動きを読み取るのが苦手

- ・俳優たちの表情の変化、しぐさや言葉を発する際の語感、声から伝えようとしている感情の表現があるということも、つい最近まで理解できていなかった。

自閉症スペクトラムや学習障害の特性もあると思われます、当時の診断基準によって「ADD」と診断されたようです。

2 輝ける場所を見付けられた理由

①特性を理解していつも背中を押してくれる母親の存在（母親も発達障害の診断を受けているが、類さんの苦手さをカバーするヒントを与えたり、たくさんの経験をさせたりしている）、②個々の違いを認めるアメリカのおおらかで自由な環境（日本に戻ってきてからいじめに遭っている）、③得意分野がある（幼少の頃身に付けた英語やモデルとして活躍できる容姿などが自信になっている）、④信頼できる主治医との出会い、⑤コメディ俳優を目指すという夢がもてたこと、⑥周囲の理解と支援が得られたことなどが理由として考えられる。

栗原類さんは、昨年5月、NHKの情報番組で「僕はADDである」と公表しました。この本が、多くの人たちに発達障害を知る手掛かりになってほしいと出版しました。「人は、発達障害であろうとなかろうと、その人が輝くための場所さえ見付けられれば、誰もが必ず輝くことができるのだと思います」と、最後に綴っています。